



情報 I Flex

特定非営利活動法人
学習開発研究所 理事(代表)
元帝塚山学院大学 教授
高橋 参吉

令和8年度に新しく刊行される『情報 I Flex』について、その編修方針と特徴について述べる。

1. 編修方針

- (1) 全50単元で構成し、選択しても指導しやすいように、1単元につき見開き2ページとした。
- (2) 各章末の〔実習〕は、通常の実習題材以外にも共通テスト対策向きの題材も入れた。
- (3) 各章の学習内容の応用を〔Step up〕で掲載し、共通テスト対策としても利用できるようにした。
- (4) 各単元の重要用語〔Key Word〕を主とした〔まとめ〕や学習内容の定着を図る〔章末問題〕を置いた。
- (5) 中学校での学びとの連携を考え、「技術」で学んだ用語は、〔Remember〕として掲載した。

2. 教科書の構成上の特徴

『情報 I Flex』は、その名称「フレックス」の意味する通り、各単元や〔実習〕、さらには、〔Step up〕の項目も選択できるように配慮した教科書である。

(1) 章扉

学習内容に関連する偉人の業績によって行われた問題解決の事例を3コママンガで紹介した。

(2) 本文

各単元の最初に〔intro〕で、身近な題材の質問を用意し、生徒が学習内容に興味を持つようにした。本文はイラストや図表などの視覚的資料も充実させ、簡潔に易しく記述した。ただし、理解しにくい単元は、〔QRコード〕のコンテンツで学習内容の助けとなるようにした。〔EXERCISE〕では、生徒が、知識や思考力・判断力が身に付けら

れる課題を用意した。なお、プログラム(Python)やデータ活用では、例題を通して体験的に学べるようにし、数式は避けるようにした。

(3) 実習

各章の〔実習〕は全章で15テーマ、コンピュータやマイコンボードを利用した内容、共通テストを意識した演習のような内容も用意した。

(4) Step up

各章で2もしくは4ページ、全章で29項目について、各章の深い学習内容や共通テストを意識してまとめたものである。

(5) 章末問題、巻末資料

〔章末問題〕では、問題ごとに学習評価の3観点を目安として示した。巻末には、学習の助けとなる資料(法規、HTML、プログラミングなど)を配置した。

3. 執筆にあたっての工夫点

執筆にあたって工夫した点、あるいは、苦勞した点を以下に書いておく。

(1) 「社会」と「科学」のバランスを考えた教科書

全章で50単元であるが、1、2章(情報社会と問題解決、コミュニケーションと情報デザイン)で23単元、3～6章(コンピュータと情報機器、プログラミングとモデル化、ネットワークと情報システム、データベースとデータの活用)で27単元とした。各章での単元数を決めるのに、他の教科書との関係も考慮し工夫した。

(2) 共通テストを意識した教科書

本文の内容を補うためにも実習は重要であるが、共通テストも意識して演習のような内容も入れた。学校の実情に合わせて取捨選択し活用して欲しい。

(3) 生徒の興味を引く教科書

本文のイラストや図表、〔intro〕は、生徒が興味をもって学習を進められるように工夫した。右ページの右端にあるパラパラマンガも、情報に興味を持つ生徒を増やしたいという執筆者と編修者の思いである。